

国立研究開発法人  
日本医療研究開発機構（AMED）委託事業

平成 28 年度  
ゲノム病理標準化センター  
第 6 回 病理標準化センター講習会 報告書

於 東京大学

平成 28 (2016) 年 7 月

## 第 6 回 ゲノム病理標準化センター講習会報告書

今回は、日本病理学会の「ゲノム研究用病理組織取扱い規程」の製本版が発刊、無償配布されてから初めて東京大学を会場として、ゲノム研究等に資する質の高い病理組織検体の取扱いに関する高度専門知識を有する人材の育成を目的とした「第 6 回ゲノム病理標準化センター講習会」を平成 28 年 7 月 24 日（日）に開催した。

過去 5 回の講習会は、第 1 回講習会は「ゲノム病理標準化センター講習会」を行っていくための「実証講習会」として、2015 年 3 月 28 日（土）、29 日（日）の 2 日間、第 1 日目に座学講習、第 2 日目は実習講習を行い、日本病理学会の委託事業である「組織取扱い規定」を作成するために実証研究に関わっている施設の医師や技師、ゲノム研究の第一線の先生方など、のべ 86 名の方が参加した。第 2 回講習会は 2015 年 8 月 7 日（金）、8 日（土）、9 日（日）の 3 日間、JCOG の臨床研究グループの先生方を中心に、第 1 日目座学講習、2 日目・3 日目実習講習の構成で、3 日間でのべ 91 名の医師および技師の方々にご参加いただいた。第 3 回講習会は、2015 年 12 月 6 日（日）、座学による講義講習を企画し、既に技術的なノウハウに関しては精通している臨床検査技師をはじめ、技術系の先生方、バンキングを担当あるいは計画されている施設、部門の責任者の医師等を中心に参加していただき、さらにゲノム医療の実践というアウトカムを意識して、製薬会社や試薬メーカーの方々にも参加を呼びかけ、78 名の方々の参加があった。第 4 回講習会では、日本病理学会への AMED よりの委託事業である「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程」をハンドアウトとともに参加者全員に無償配布し、2016 年 3 月 12 日（土）、13 日（日）の 2 日間、座学と実習による講習会を開催し、のべ 65 名の参加者があった。第 5 回講習会は、はじめて東大を離れ、九州大学にて 6 月 18 日（土）に開催され、62 名の参加者があった。

今回は、主催者側および日本病理学会を代表して 東京大学医学部 人体病理学・病理診断学分野教授 日本病理学会理事長 深山正久氏よりご挨拶があり、AMED ゲノム医療事業部長 加藤治氏より、AMED の方針・国の方向性について説明がなされた。講義では、「ゲノム医療実現に向けたオーダメイド医療の実現プログラムの取り組み」として、理化学研究所 統合生命医科学研究センター 統合生命医科学研究センター 統合生命医科学研究センター 副センター長 久保充明氏に、また

「東京大学医科研究所における BBJ 病理組織バンキング」に関して東京大学 医科学医研究所 所長 教授 村上善則氏にご講演いただいた。

さらに「ヒト病理検体からのゲノム診断と研究」というテーマで、日本病理学会 ゲノム病理診断検討委員会 委員長 九州大学院医学研究院 形態機能病理学 教授 小田義直氏より、「病理診断を妨げない検体採取法等」を主とした講演があり、次いで日本病理学会の AMED 委託事業である実証研究に関して、「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程の解説」と題して、日本病理学会ゲノム病理組織取扱い規約委員会 委員長 慶應義塾大学医学部 病理学教室 教授 国立がん研究センター 研究所 分子病理分野長 金井弥栄氏よりご講演いただいた。製本されたテキストに対する評価は非常に高いものであった。

参加申し込み者は 90 名を超え、定員を超えたためお断りした方もいたが、当日の急務による医師の欠席等で、最終的な参加者は 85 名、北海道から沖縄までまさに全国からの参加であった。第 6 回までの参加者はのべ 476 名となった。なお今回の講習会参加者には、日本病理学会病理専門医更新 領域別講習単位 2 単位が、また日本臨床検査技師会の生涯教育単位が付与された。

講習会の終了にあたり、聴講生には修了証書が授与された。また聴講生 1 人 1 人には「ゲノム病理標準化センター講習会ホームページ」で講習内容が復習可能なコンテンツの閲覧と e-ラーニングが受講できるように専用の ID、パスワードを配布し受講を促した。

講習会受講者全員にアンケートの提出をお願いしているが、アンケートの回収率は 95.3%、内容に関しても、いずれの講義も「よく理解できた」「理解できた」「難しかったが理解できた」を合わせて 100%であり、講義内容に関して理解していただいているという結果であった。なおアンケートの内容は講義をしていただいた先生方にフィードバックし、今後の講義の参考にしていただいている。

(文責 東京大学医学部附属病院 病理部 佐々木毅)